

鹽竈十福



発行所 〒985-1810 塩竈市一森山一番一号

志波彦神社 社務所
鹽竈神社

電話 〇二二-三六七-一六一(代)

FAX 〇二二-三六五-五五三〇

<http://www.shiogamajinja.jp/>



上の写真は、四年前の四月、「神々の花灯り」における舞殿での神楽「悠久の舞」のものである。昨年はコロナ禍で「神々の花灯り」の行事一切は中止され、本年の開催も未定である。そうした世の有様に関わらず、春に花は咲き満ちる。神の御苑の夜桜に、心が浮き立ち何か常ならぬ思いとなった経験を持つ方は多いことだろう。かがり火に浮かぶ花影と神楽の調べ。人の心を幽玄の世界へと誘ってゆくような桜の季節を日本人は神代より楽しんで来た。

世の中に絶えて桜のなかりせば

春の心はのどけからまし 在原業平 古今和歌集

一千百有余年前の業平の歌心は、疫病禍の今日一層強く心に届く。桜に癒され慰められることを、和歌という文化をもつて伝え来た(きた)国柄を、しみじみと有り難く思うのだ。

清水へ祇園をよぎる桜月夜

今宵逢ふ人みなうつくしき 与謝野晶子

マスクの為に互いの表情はわからない。けれども、しおがまさまの桜を「美しいね」と見上げる人は、みな美しい。そんな思いで互いの距離を保ちつつ、花見を楽しんでもらいたい。国の天然記念物である「塩竈桜」は遅咲きで、今月半ば過ぎには盛りとなるだろう。花見詣でお出かけあれ。

第七十三回奉獻乾海苔品評会

去る一月十一日、第七十三回奉獻乾海苔品評会が開催されました。

当社の産業振興大祭協賛会が主催する品評会は、宮城県産海苔の品質の改善と生産者の意欲向上を念願して戦後の混乱の中、昭和二十三年に第一回を開催して以来、年を重ねる毎に隆盛となり、本年度第七十三回を数える事となりました。

今期は、台風等の影響もなく概ね順調に生育し、生産者の技術と努力により高品質の乾海苔が生産されました。

本年は、県内各地より一



〇二点が出品され、宮城県漁業協同組合、関係自治体の担当者により厳正な審査が行われ、優賞（宮城県知事賞）に相澤栄喜殿、準優賞（塩竈市長賞）に丹野一雄殿のお二人以下、六十四名が入賞を果たしました。

当日は、鹽竈神社左右宮で感謝祭が斎行され、祭典後、優賞・準優勝者へ表彰が執り行われました。

出品された乾海苔は、当り祭務所に展示され、参拝者は宮城県が誇る「みちのく寒流のり」の色・艶・香りを堪能していました。

入賞者 (敬称略)

優賞(宮城県知事賞)

代ヶ崎浜地区 相澤 栄喜

準優賞(塩竈市長賞)

石巻湾 丹野 一雄

志等賞(東松島市長賞ほか)

石巻湾 相沢 仁

矢本 相澤 太

矢本 及川 輝明

矢本 赤間 善勝

吉田浜地区 佐藤 勘二

代ヶ崎浜地区 鈴木 光博

宮戸西部 鈴木 光博

式等賞(全国漁業協同組合連合会長賞ほか)

石巻湾 本田 智章

仙南(巨理) 津田 雅彦

仙南(巨理) 木村 宏

浦戸 内海 洋倫

浦戸 内海 修一

代ヶ崎浜地区 齋藤 吉勝

代ヶ崎浜地区 津軽 圭一

要害地区 梶田 利一

技術賞(東北海苔問屋協同組合理事長賞ほか)

石巻湾 丹野 薫

仙南(巨理) 木村 清一

矢本 津田 正次

矢本 三浦 義孝

東宮浜地区 星 長一

参等賞

(アイサン工業(株)賞ほか)

石巻湾 近藤 正昭

仙南(巨理) 菊地 幹彦

仙南(巨理) 穴戸 敏浩

浦戸 内海 健靖

浦戸 阿部 義彦

浦戸 内海 茂夫

浦戸 内海 勇一

浦戸 津田 大

矢本 相澤 裕太

矢本 阿部 雄美

松ヶ浜湊浜地区 星 兵喜

松ヶ浜湊浜地区 大町 昭

代ヶ崎浜地区 坂本 寿

東宮浜地区 瀬戸 正一

四等賞 (株)サンエイ海苔賞ほか

石巻地区 千葉 勝

宮戸 千葉 政敏

宮戸 奥田 正勝

宮戸 土井 安裕

吉田浜地区 鈴木 信悦

代ヶ崎浜地区 赤間 竹晴

代ヶ崎浜地区 相澤 幸喜

代ヶ崎浜地区 石森 圭太

東宮浜地区 名村 忠之

要害地区 遠藤 力

宮戸西部 小野 仙一

鳴瀬 鹿野 拓洋

石巻湾 阿部 明

浦戸 (有)千葉水産

矢本 三浦 一郎

矢本 三浦 正洋

宮戸 石田 信英

松ヶ浜湊浜地区 星 博

菖蒲田浜地区 鈴木 隆之

菖蒲田浜地区 伊丹 幸一

花洲浜地区 遠藤 純一

花洲浜地区 佐藤 勝利

吉田浜地区 佐藤 弘

吉田浜地区 佐藤 建一

代ヶ崎浜地区 相澤 良弘

東宮浜地区 我妻 貞俊

要害地区 佐藤 優

宮戸西部 櫻井 清一

宮戸西部 尾形 文秀

塩釜市第一 伊藤 和光

仙台 秋葉 吉夫

産業功労賞 米 善蔵

代ヶ崎浜地区 ほか八名

なお、優賞・準優賞者の乾海苔は例年、生産者の手により御皇室へ献上されますが、本年はコロナ禍の為に郵送での献上となりました。

二月十七日、宮内庁へ郵送し、十九日に掌典職より賢所、天皇皇后両陛下、上皇皇后陛下、皇嗣秋篠宮同妃両殿下、常陸宮同妃両殿下に献上されました。

節分祭



二月二日、節分祭が斎行されました。例年は多数の奉仕者のもと、特設舞台からの豆撒きを行っておりました。しかしながら、本年は新型コロナウイルスの終息の兆しが見えない状況の中、大勢の参加者のもとでの豆撒きは執り行わず、世話人が代表して祭典に参列しました。

二〇八名の年男年女の厄災消除、家内安全、商売繁盛を祈願し、拝殿において宮司による奉幣の儀、追儼の儀が執り行われました。

祭典委員会 役員就任奉告祭

三月三日、祭典委員会役員就任奉告祭が斎行されました。

祭典後、宮司より委員長、副委員長へ委嘱状が交付されました。

左記に新役員の皆様を御紹介いたします。(敬称略)

委員長	内形 繁夫
副委員長	齋藤 善彌
"	香取 嗣雄
"	志賀 重信
"	菅原 宏和
"	鈴木 金善
幹事長	千田 忠一
副幹事長	桜井 不二男



養成所通信

第七十六回卒業式

三月二十五日、当神職養成所卒業式が挙行されました。

本年度の卒業生は一名。不父兄や御来賓の方々を始め講師・在所生が見守る中、これからの希望を胸に式に臨んでいました。

○卒業生並びに進路

小谷 竜星
星辻神社(秋田県)

入所試験実施

三月十八日に神職養成所入所試験が実施され、二名が合格となりました。

四月六日には入所式が執り行われ、二年間の養成所生活が始まります。また、同日付で三名が二年生に進級となります。

○新入生

「普通課程Ⅱ類一年」
鈴木 誠恰 (岩手県)
榊井 琢彦 (宮城県)

○進級生

「普通課程Ⅱ類二年」
及川 周 (宮城県)
狩野 瑞季 (北海道)
松峯 孝成 (岩手県)

博物館だより

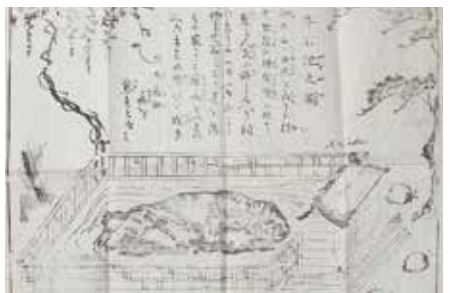
資料紹介「牛石池之図」

鹽竈神社の末社である御釜神社境内には、牛石藤鞭社(うしいしふじむちしや)が鎮座しています。その脇には小さな池があり、その水中には牛石と呼ばれる石が沈んでいます。

伝承によれば、鹽土老翁神様が子供の姿となって牛の背に塩を積んで運びに上がったが、この時に鞭がわりに用いた藤の枝が社のそばに根付き、また疲れた牛が石と化して牛石となつたと伝えられています。通常は水中に没して目にする事ができない牛石ですが、



牛石藤鞭社と藤棚



牛石池之図

牛が伏せたような形をしており、不思議な力があるとして信仰されてきました。ここにあげた「牛石池之図」は、木版一枚刷の観光案内図に類するもので発行年は未詳ですが、図中の説明書では「是を信ずる家には疫病を入れず、人の手足の煩いを除き、牛馬の病を癒す」と記されており、牛石が疫病を防ぐものとして信仰されたことがわかります。

新型コロナウイルスにより日々不自由を強いられている昨今、疫病にかかわる信仰について着目されていますが、当地塩竈にも、こうした信仰があったわけですから、類品とともに博物館にて展示中です。

国家安泰 五穀豊穰 家内安全 祭事暦

(四月から六月まで)

毎月

一日 朔日 祭

曲木神社月次祭

御釜神社月次祭

鹽竈神社月次祭

志波彦神社月次祭

四月

二十五日 鹽竈神社花まつり

二十九日 昭和祭

五月

八日 後神田御田植祭

九日 氏子崇敬会春季大祭

十日 鹽竈ザクラの日祈願祭

六月

三十日 夏越大祓式

安産祈願 海上安全 大漁満足

昨年十二月から本年二月にかけて当社を正式参拝された方々を左記に御紹介いたします。(敬称略)

参拝記録

令和二年

十二月

二十八日 国學院大學指定実習Ⅱ受講者

五名

令和三年

一月

七日

千葉博男氏

陸上自衛隊多賀城駐屯地 第二十二即応機動連隊兼 多賀城駐屯地司令

石井伸幸一等陸佐

以下隊員十名

十七日

岩沼市・竹駒神社 村田守広宮司

宮城県神道青年協議会 「大寒禊研修会」参加者二十名

二十一日

責任役員・総代合同会

仙台市・宮城縣護國神社 田中於菟彦宮司

二十四日

立正佼成会 仙台教会長 近藤雅則氏 以下三名

二月

四日

仙台市・大崎八幡宮 小野目博昭宮司

文芸欄

凍解の大地の水に生かされて つと触れし夫の指先春炬燵 片減りの夫のはんこ沈丁花 遠汽笛一森山の雪の間 薄氷のしじまかき消す鴉かな 主なき書架に春光眩しめり 十年もたつのに余震凍ゆるむ 幸の色はとりどり冬すみれ 読経のもれくる雪解霰かな 紅梅や海を見つめる捕鯨砲

菅原 和子 佐藤 悦子 池田 智恵子 横田 みち子 上田 由美子 今田 須美子 大友 セツノ 大野 みよ子 今野 紀美子 及川 源作

消防訓練・救命講習会実施

救命講習会実施

例年文化財防火デーに伴い、各関係団体参加のもと消防訓練を実施していただきましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、本年は中止となりました。そこで二月二十八日、三月一日の両日、神社職員を対象に消防訓練・救命講習会が実施されました。

参加職員は、神社の消火設備の再確認を始め、通報訓練、訓練用AED装置を使用した救命講習、初期消火訓練に取り組みました。

銅板奉納者芳名

令和二年

十二月

愛知県

伊名 結海 ほか一〇八名

令和三年

一月

千葉県

栗原 健 ほか一三三名

二月

鹿児島県

遠藤 深互 ほか七十六名 (敬称略)

人事異動

昇級(三月十日付) 神職身分二級

権禰宜 藤澤 瑞朗

” 柏木 岳史

新任(三月三十日付)

巫女見習 加藤 美羽

” 日野 愛咲

春巻

桜の季節となりました。今までのようなお花見はできませんが、静かに楽しみたいものです。(慶)

